

サプライチェーンマネジメント



詳細は、JSRグループCSR調達方針をご参照ください。
詳細は、サプライチェーンマネジメントをご参照ください。

基本的な考え方

JSRグループでは、経営基盤におけるマテリアリティ（重要課題）の一つに「サプライチェーン」を掲げています。お客様のニーズに合った「革新素材」「良い製品」を提供し、より良い社会の実現に貢献していくことは、JSRグループの重要な役割です。そのためには、持続可能なサプライチェーンを構築し、健全な調達先から安定的な調達を継続できるよう取り組んでいきます。

● CSR調達方針

JSRグループでは、サプライチェーンマネジメントの発展がお取引先様とJSRグループの相互繁栄につながるとの考えのもと、「JSRグループCSR調達方針」を制定し、6分野36項目の遵守をお取引先様に願っています。

2021年度から、社会の要請やJSRグループの考え方を確実に共有するため、CSR調達方針・人権方針への賛同書を回収する取り組みを行っています。

2024年度はデジタルソリューション事業において、99%の回収率を達成しました。

● お取引先様の評価

当社は、お取引先様の調達評価基準への適合状況を定期的に確認しています。新規取引の候補先については、財務状況や品質管理レベルを評価し、取引前に安全・環境・品質の実地監査を実施し、継続取引先についても、同様の基準で適宜再評価を行います。特に有事の調達難易度が高い重要原料に関しては、定期的な監査を行い、供給継続性に関わる事項の実地確認や品質安定化に向けた提案、指導を行っています。

● 責任ある鉱物調達への対応

JSRグループは、サプライチェーンにおいて人権への負の影響を生じさせるリスクが高い対象鉱物（紛争鉱物であるスズ、タンタル、タングステン、金に加え、コバルト、マイカを含む）について、JSRグループ購買指針に基づき、直接および間接的な使用も一切認めないという考え方のもと、これらの不使用を確認する取り組みを継続しています。2015年度に、紛争鉱物の使用有無に関する調査を実施し、以降、新規原料の採用時や新規の取引開始時には、RMI (Responsible Mineral Initiative) の標準テンプレートを用いた調査を実施しています。

2024年度はデジタルソリューション事業のサプライヤーのうち95%から回答を入手し、対象鉱物の不使用もしくは問題のない製錬業者から調達されていることを確認しました。

● 調達担当者の教育と研修

CSR調達や紛争鉱物への取り組みをテーマとした購買部門担当者への教育と研修にも注力しています。外部セミナーへの参加、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの分科会に参加して最新動向を入手しています。新たに購買部門に配属された担当者には、JSRグループ購買指針の十分な理解を促す導入教育を実施しています。また、担当者のさらなる知識習得を促すため、一般社団法人日本能率協会が認定するCPP資格※の取得を奨励しており、講習会への参加費用や受験料を会社負担とするなどの支援も行っています。

※ Certified Procurement Professional、購買・調達分野における専門的な知識を身につけていることを証明する資格